

活動報告

2010年

- 11月 ・女子中高生のための関西科学塾2011に参加（けいはんな女性研究者ネットワーク）
- ・奈良工業高等専門学校から「女子中高生理系進路選択応援プロジェクト（理系ゴコロのすすめ）」の取材の為、女子中高生が、情報科学研究科井上准教授を訪問
- ・オープンキャンパス2010にて男女共同参画室ブースを設置、及び一時託児を開催
- ・第4回在宅勤務検証の実施
- ・京都新聞11月25日夕刊にて、けいはんな女性研究者ネットワークの活動紹介掲載
(<http://www.kyoto-np.co.jp/sightseeing/article/20101125000078>)
- ・合同PT会議開催

PICK UP!

「理系ゴコロ探検隊」が訪問しました！

2010年11月13日 本学情報科学研究科

JST女子中高生の理系進路選択支援事業 である奈良高専 (<http://rikeigokoro.jp/>) 「女子中高生の理系進路選択応援プロジェクト」から理系ゴコロ探検隊（女子中

学生3名、女子高専生3名、保護者、教員）の皆さんが情報科学研究科の井上美智子准教授の講座を訪問しました。井上准教授と講座の女子学生から、理系教員、理系学生の暮らしについての紹介があり、その後、いつ理系進学を決めたのか？理系でよかったこと／困ったことは？など探検隊の皆さんからの質問に答えつつ、和やかに会談しました。



◇参加者の感想

- 理系を目指しています。女の子が少ないと聞いていたけど、今日来てみて楽しく学べそうだと思いました。
- 興味を持てる内容ばかりでした。楽しかったです。

参画室の役割と活動

イベント開催時の一時託児システムについて

男女共同参画室では平成24年3月末まで、教職員・ポストドク・学生が研究活動や職務と子育てを両立し、より充実した教育・研究活動を行えるよう、学内で開催するイベント（オープンキャンパス・サイエンスフェスティバル・シンポジウム等）時に一時託児支援の検証を実施しています。大学が全学的に開催するイベント（オープンキャンパス・サイエンスフェスティバル等）はもちろん、各研究科単位で開催するイベント（シンポジウム等）、本学施設を利用して学会等が主催するイベント（シンポジウム等）時も、一時託児を開催することができます。一時託児を利用できるのは、奈良先端大の教職員・ポストドク・学生とその子どもさん（3ヶ月～小学校6年生）。保育を担当するのは、託児のプロ、ポピンズコーポレーションです。

イベント主催者に違いによって費用負担が発生する場合があります。

1. 大学が全学的に開催するイベント（オープンキャンパス・サイエンスフェスティバル等）
 - (1) 保育にかかる費用：全額大学負担

2. 各研究科単位で開催するイベント（シンポジウム等）
 - (1) 「一時託児支援申請届」提出
 - (2) 保育にかかる費用：大学50%負担
研究科50%負担

3. 本学施設を利用する学会等主催イベント
 - (1) 保育にかかる費用：主催者および利用者が全額負担

一時託児支援について、進め方など詳しい内容の問い合わせは男女共同参画室 (tel 内線 5137 5138) まで。



11月13日（土）オープンキャンパス一時託児

第1回 テーマ「子育て」②

バイオサイエンス研究科 植物分子遺伝学・河野洋治助教

子育てを取り巻く皆様へ

記念すべき第一回目の男女共同参画室のコラムの大役を仰せつかった、バイオの島本研で助教をしています河野です。与えられたテーマは、「子育て」です。私からは、異なる人を対象に3つのメッセージを送りたいと思います。

=これから子育てに挑戦する皆さんへ=

私が伝えたいことは、「子育ては楽しい」この一言につきま。科学的な根拠はありませんが、これは、遺伝子レベルでプログラムされたものに違いありません。皆さんご存じのように、人間は怠け者です。この怠け者の人間が育児という大変な事業をやり遂げるのですから楽しいに決まっています。

私は、若い頃、特別な事あるいは特別な生活が幸せをもたらすと信じていました。しかしながら、この仮説は、間違っていることに気がつきました。普通のこと、自分に身近なものこそが大きな幸せをもたらすことに気がつきました。普通の生活がもたらす、幸せを是非体感してください。

=子育てが現在進行形の皆さんへ=

私は、このカテゴリーになります。日々悪戦苦闘しながら、子育てをしています。ストレスをためずに、子育てをするコツは、「自分で自分を褒める」ことです。やはり、他人（パートナーも含む）があなたのすべての努力を評価することは不可能です。ナルシストのように、自分で自分を褒めてください。子育てがもっともっと楽しくなります。

子育てをしていて感じるのは、子育て中に支えてほしいポイントが夫婦の間で異なる点です。勝手な思い込みかも知れませんが、男性は子育てで精神的に疲労することは少ないですが、女性は精神的なストレスを比較的にためやすいように思います。恐らく子育て中に一番大切なことは、女性の「心」を支えることのように思います。最も身近な存在（理解者？）である夫がキッチンとケアすることが大切だと思います。ちなみに私は、ケアができないのでよく夫婦ゲンカになります。

また、子育てをする上で最もストレスを感じることは、自分以外の他人が時間をコントロールすることだと思います。例えば、子供の病気、突然の研究室のセミナー変更や大学の行事などです。このような場面では、他の人に迷惑がかかる場合も多く、自分で時間をコント

ロールできなくなるので非常にストレスになります。この点は周りの人が、すこし気を遣って頂けると子育てが現在進行形の人たちは大変助かります。

=大学へ=

皆さんご存じのように先端大は、振興調整費の女性研究者支援モデル育成事業（以下、支援モデル）に採択されています。これは、大学が支援モデルのお金を使って、女性研究者が研究活動を継続するための支援を行う仕組みを構築することを目的としています。したがって、支援モデル終了後は、自学経費で支援を行う仕組みを維持しなければなりません。大学の運営費交付金が、毎年減らされている状況で、お金がかかる仕組みの構築は不可能となります。

少し話は変わりますが、現在は、昔と異なり、お金さえ出せば女性研究者の研究と出産・育児等サポートする会社はいくらでもあります。その意味では、女性研究者の支援を行う仕組みは存在することになります。しかしながら、女性研究者の雇用は、大幅には促進していません。

では、何が足りないのでしょうか？

それは、仕組みが足りないのではなく、社会全体の意識が足りないのではないのでしょうか？女性研究者の「心」を支えることができるような社会そして夫を育成することが大切なミッションとなるでしょう。女性の子育てをサポートするのではなく、自ら主体的に子育てができる夫の育成が女性研究者の雇用促進の起爆剤となるはずで。良い夫の数が増えれば、社会の価値観も徐々に変化していくでしょう。

私の経験では、多くの男性研究者の妻は、研究者あるいは元研究者の場合が多いと思います。すなわち先端大には、女性研究者の良い夫の候補が沢山いることとなります。良い夫を育成するための意識改革に、多くのお金は必要ありません。お金をかけずに女性研究者の支援を行う新たな仕組みが構築でき、支援モデルの目標も達成できます。先端大参画室のホームページを見るとそのほとんどが女性研究者のみを対象としたもので、男性研究者に対するアプローチがないのが非常に残念です。是非、良い夫を育成するためプロジェクトを設立して下さい。

今後の活動予定

2010年
12月 ・シンポジウム開催

2011年
1月 ・第5回在宅勤務検証の実施
・ロールモデル集第2号発行
・合同PT会議

お知らせ

けいはんな女性研究者ネットワーク

けいはんな女性研究者ネットワークは、けいはんな学研都市の女性研究者（技術者を含む）同士の交流の機会を提供し、WLBの為に役立つネットワークを目指します。けいはんなで働いている、住んでいる女性研究者の方、以前、けいはんなで働いていた、勉強していた女性研究者の方も参加いただけます。

登録方法：
ご氏名・所属・メーリングリスト用メールアドレスをご記入の上、メールにてお申し込み下さい。
E-mail: sankaku-jimu@ad.naist.jp
※詳しくは参画室HPをご覧ください。(http://www.naist.jp/gender/contents/support/keihanna_network.html)

WLB相談窓口

WLBに関わる情報を提供しておりますので、お気軽にお越しください。
場所: 研究調査センター棟3F 男女共同参画室内 TEL: 0743-72-5138
受付窓口: 男女共同参画室内受付または専用メールアドレス E-mail: wlb-soudan@ad.naist.jp
受付時間: 月曜日～金曜日 10:30～12:00/ 13:00～17:00

